

「シビル・ベテランズ&ボランティアズ」活動状況(3)

関西大学 FIC-会員 古田 均 (CVV 代表)

1. まえがき

シビル・ベテランズ&ボランティアズ(CVV)はおよそ20年前に関西在住のシニア土木技術者が中心となり組織され、土木分野での社会貢献を目指して継続的に活動してきた。その後、創設期メンバーの高齢化が進んだことから新たなメンバーを招集するとともに、2016年度から2年間、土木学会関西支部共同研究Gr.としての支援を受け、将来を見据えた組織の在り方を検討してきた。2018年6月にCVV総会を開催して会則を制定し、会員・会友を明確にした。また、土木学会関西支部に「将来構想検討委員会」が新たに設けられ、CVVの財政基盤も整備された。ここに2018年度の主なCVV活動を報告する。

2. 調査項目と活動成果

2-1. 定例会・活動資金

1~2カ月ごとの定例会では、その間の活動報告およびその後の活動企画に関する討議、ならびに今後の活動方針や組織の在り方等を議論している。活動資金は支部助成金30万円で、主な支出は会員交通費、橋梁調査経費、書籍購入、講師旅費等である。

2-2. 「浪速の名橋50選」活用行事

「浪速の名橋50選」は、松村博氏(元大阪市)が選定し、20年以上前に土木学会関西支部HPにリンクされたものである。その後リンクが外されたが、支部HPへの再掲載に向けた調査活動をCVVで2016年度に実施した。2017年度に「浪速の名橋50選」を活用した取り組みを進め、2018年度も以下の行事を実施した。

(1) 学生や若手技術者への技術伝承の試行

土木を学ぶ学生を対象に「土木の面白さ」を知ってもらう活動の一環として、昨年に引き続いて関西大学橋梁研究室の学生とともに淀川沿いを歩いて橋巡りをした(写真-1)。豊里大橋から菅原城北大橋、毛馬閘門、淀川大堰、毛馬橋、長柄橋、新淀川大橋まで、桁橋から斜張橋、アーチ、トラスと様々なタイプの橋梁をまとめて見学する約7kmの行程であり、事前の座学と少人数の班分けで実施し好評を得た。来年度は、関西近郊の大学から広く募集して実施する予定である。



写真-1 淀川の橋巡り

(2) 関西支部「ぶら・土木」への協力

昨年に続き「ぶら・土木」とCVVとのコラボで「なにわ八百八橋めぐり~中之島に架かる橋を巡るPART2~」と題したイベントを実施した(写真-2)。今回は中之島図書館にて大阪市の都市計画の歴史や各橋の概要、それぞれの橋にまつわるエピソードなどを学んだ後、CVVのボランティアガイドの案内で、東は難波橋から西は渡辺橋まで2時間半のまちあるきを楽しんだ。



写真-2 ぶら・土木

(3) Osaka Metro 大阪・まち・再発見「ぶらりウォーク」への協力

Osaka Metroでは市交通局の頃から年数回「大阪・まち・再発見 ぶらりウォーク」を開催しているが、コースに橋梁、河川水門など土木施設が含まれていることから、同社の了解を得て、今年度初めて土木施設の紹介に取組んだ。12月15日に開催された第4回では工事中の淀川大橋の南詰において、橋および工事の概要、陸閘(防潮水門)の役割などのパネルを展示し、CVVメンバー数名が説明役として対応した。多くの参加者が足を止め説明に耳を傾けていただいたので次年度以降も継続したいと考えている。(写真-3)



写真-3 ぶらりウォーク

2-3. 追補名橋11選作業

(1) 橋巡り活動

前年度に続いて大阪府下の名橋として11橋を選定し、HP上で公表することとした。飛翔橋、なみはや大橋、天保山大橋、夢舞大橋の4橋は、これまでの見学会で現地調査済みのため紹介記事の取りまとめとした。現地調査の7橋は、交通の便を考慮して大阪市内~北部、大阪南部に分けて実施した。表-1に現地調査の一覧を示す(調査の詳細は、CVVのHP(<http://cvv.jp/>)~「イベント」~「市民見学会の記録」を参照)。

表-1 名橋追補橋梁の現地調査一覧

No.	実施日	対象の橋	利用交通	参加者数
1	2018/10/20	猪名川大橋、TKPゲートタワー立体道路橋、福島高架橋、鳥飼仁和寺大橋	徒歩、電車、バス	11
2	2018/11/15	新大和川大橋、泉大津大橋、光明池大橋	徒歩、電車、タクシー、バス	6

(2) 大阪市内～北部の橋(表-1のNo.1の4橋)

阪神高速池田線に架かる橋梁群を主に調査した。新猪名川大橋はビッグハープの愛称で呼ばれ、河川条件から24°の斜角をもつPC斜張橋である。TKPゲートタワー立体道路橋は、ビルを貫通するユニークな橋として世界的にも有名であり、市街地の立地からビルと一体で景観整備された(写真-4)。福島高架橋は、JR大阪環状線を跨ぐ鋼箱桁橋であり曲線構造のため1960年代当時の高度な技術を駆使して架設された。鳥飼仁和寺大橋は淀川に架かる鋼斜張橋であり、1面吊りケーブルのシンプルな外観となっている。



写真-4 TKPゲートタワー立体道路橋

(3) 大阪南部の橋(表-1のNo.2の3橋)

大和川以南の3橋を調査した。新大和川大橋は、阪神高速堺線が大和川を斜角30°で交差して南海電鉄も跨ぐPCラーメン橋であり最大支間120mを張出架設工法により施工された。泉大津大橋は、堺泉北港に架かる我が国で最初の単弦ローゼ橋であり大型フローティングクレーン2隻の相吊りによる一括架設が採用された(写真-5)。光明池大橋は、泉北丘陵にある光明池に架かる歩行者・自転車専用のRC中路式バランスドアーチ橋であり、大規模住宅団地の造成に伴い池の水と周辺の緑が調和した豊かな街づくりの一環として架けられた。



写真-5 泉大津大橋

2-4. 自治体支援活動内容

(1) 神戸市「土木の学校」支援

神戸市では「土木の学校」において、高校生・大学生を対象とした「橋梁模型コンテスト」の開催、春休み・夏休み・土木の日に開催する小学生を対象とした「土木の教室」、神戸市主催の各種イベントへの協力などに取り組んでいる。CVVではその趣旨に賛同し、過年度より「土木の学校」に運営委員として参画するとともに、神戸市からの要請に応じて、種々の行事にメンバー数人を派遣し、市民が土木への理解を深める活動に協力している。

(2) 西宮市都市局「都市政策研究会」への支援

西宮市都市局を中心とした市の若手技術者に対し、CVVメンバーが話題提供を行う講演会形式で意見交換会を開催している。2016年3月の第1回講演会から現在まで5回の講演会を開催した。2018年2月22日の第5回講演会では日刊建設工業新聞社の取材があり、翌23日の記事に掲載された。今後も継続開催を予定している。

(3) インフラメンテナンス国民会議への加入

CVVでは、社会貢献活動の一環として、インフラ保全に着目した活動を模索している。そのプロセスにおいて、地方の自治体支援を設立目的の一項目としたインフラメンテナンス国民会議が2017年に発足し、鋭意活動している情報を入手した。CVVは2018年に入会、内容把握を主目的とし、同会議の近畿フォーラム事務局を訪問、個別にヒヤリングを実施した(計3回)。同事務局の意向として、CVVに組織的に主要な(ファシリテータ等)役割を担うことを希望された。現在、自治体支援の動向等にも着目した更なる情報分析を加え、総合的に、CVVとして対応すべき内容を具体化させていく予定である。

2-5. 他学会・他グループとの協同

(1) 地盤工学会「地盤工学サロン」への協力

地盤工学会関西支部では今年度60周年を迎え、種々の記念事業を展開されたが、その一環として1月18日に「第2回地盤工学サロン」が開催された(写真-6)。本サロンでは松井保大阪大学名誉教授の基調講演に引き続き「シニア技術者の社会貢献」をテーマとするパネルディスカッションが実施されたが、パネラーの一員として参画しCVVの活動を紹介するとともに同テーマの議論に加わった。今後地盤工学会関西支部との連携を進める手がかりともなった。



写真-6 地盤工学サロン

(2) 土木・環境しなの技術支援センターから理事招聘

土木・環境しなの技術支援センター(理事長:小西純一信州大学名誉教授)は2012年に設立され、長野県において土木広報、技術支援等幅広く活動されている。本センターの活動がCVVの参考となることから、事務局を担っている山浦直人氏(長野県庁OB)を迎え同センターの活動内容の講演を受けるとともに交流を深めた(写真-7)。活動内容はHP(<http://www.ne.jp/asahi/tac/shinano/>)を参照されたい。



写真-7 技術センター出版物

3. あとがき

数年にわたる検討を経て、土木学会関西支部でのCVVの常設的な位置づけが出来、それと共に会則を制定して活動の基盤が整えられた。今後は、小学生への総合学習支援、中学生への土木技術紹介、既存構造物の設計・施工内容を熟知したシニア層の知恵・知識の伝承等の活動に取り組んでいく予定である。